

第 50 回 高輪築堤調査・保存等検討委員会【部会③】

開催記録

1 開催概要

- 日 時：令和6年12月4日（水）10：00 ～ 11：30
- 場 所：TKP ガーデンシティ PREMIUM 品川 ホール5A
- 出席者：

表 出席者一覧

委員長	・ 谷川 章雄氏（早稲田大学名誉教授）
委員	・ 老川 慶喜氏（立教大学名誉教授） ・ 小野田 滋氏（鉄道総合技術研究所 アドバイザー） ・ 古関 潤一氏（東京大学名誉教授・ライト工業株式会社 R&D センター テクニカルオフィサー）
オブザーバー	・ 文化庁文化財第二課 史跡部門 文化財調査官 ・ 港区教育委員会事務局 教育推進部 図書文化財課 ・ 港区 街づくり支援部 ・ 東京都 教育庁 地域教育支援部 管理課 ・ 鉄道博物館 学芸部 ・ JR 東日本コンサルタンツ株式会社 ・ 東日本旅客鉄道株式会社 構造技術センター ・ 東日本旅客鉄道株式会社 グループ経営戦略本部 品川・大規模プロジェクト推進部門 ・ 東日本旅客鉄道株式会社 建設工事部
事務局 東日本旅客鉄道(株)	・ 東日本旅客鉄道株式会社 グループ経営戦略本部 品川・大規模プロジェクト推進部門 ・ 東日本旅客鉄道株式会社 建設工事部
サポート	・ パシフィックコンサルタンツ株式会社

■ 当日配布資料

1) 議事録確認

- ・ 次第
- ・ 資料1：第49回委員会（11/6）全体会議事録案
- ・ 資料2：第49回委員会（11/6）部会①議事録案
- ・ 資料3：第49回委員会（11/6）部会②議事録案
- ・ 資料4：第49回委員会（11/6）部会③議事録案

2) 部会③

- ・ 次第
- ・ 資料1：調査結果について

- ・ 資料2：松杭位置について

2 議事要旨

2.1 議事録確認

(1) 開会

- 第 50 回 高輪築堤調査・保存等検討委員会を開会する。(事務局)

(2) 議事録確認

1) 第 49 回委員会 (11/6) 全体会の議事録確認

- 修正指摘なし。(委員一同)

2) 第 49 回委員会 (11/6) 部会①の議事録確認

- 修正指摘なし。(委員一同)

3) 第 49 回委員会 (11/6) 部会②の議事録確認

- 修正指摘なし。(委員一同)

4) 第 49 回委員会 (11/6) 部会③の議事録確認

2.2 部会③

(1) 開会

- 第 50 回 高輪築堤調査・保存等検討委員会の部会③を開会する。(委員長)

(2) 調査結果について

- 資料 1 について説明する。(港区)

＜説明概要＞

- 資料 1-1 に緑色で示す、KP19・20 の 3 箇所の仮橋脚部口元管の試掘、ボーリング No.94・96・101・103・108・110 の報告であり、仮橋脚と遮水壁の施工の可否を判断してもらいたい。
- 資料 1-2 に、仮橋脚部口元管ライナー試掘成果を示す。3 箇所いずれも口元管 4 段目まで構造物は確認されず、遺物も確認されなかった。
- 土層の状況は、周囲の薩摩台場の盛土と推定する土層と類似しており、ボーリング結果とも概ね一致している。
- 資料 1-3 にボーリング調査結果を示す。これまでの結果と同様に、薩摩台場と思われる層が検出された。T.P.-1.0m より下層付近で、ほぼ全てのコアから海砂が確認され、

No.110 ではこの層から江戸期の遺物が検出された。

- JR の方で今後遮水壁の施工前には同一位置で探針調査を行って、支障の有無を確認したのちに施工するとのことである。
- 遮水壁の施工については、同一位置において事前に探針調査を行い、何かに抵触したら港区に報告する形で進める。(事務局)
- 海砂の由来は確認しているか。ここで堆積していたものか。(小野田委員)
 - ← コアを確認する限り、この場所で堆積したものと思われる。多くの木片や貝片の混在が確認されている。海岸に見られる砂の形状なので、もしかしたらもう少し上部にあったのかもしれない。(港区)
 - 自然堆積層と考えるのか。(小野田委員)
 - ← 自然堆積層と考えるが、人為的に集められた可能性もあるため、現時点では自然堆積層は黒色粘土層のみとしている。(港区)
 - 江戸時代はここは砂浜だったと考えるか。(小野田委員)
 - ← 古くは深い谷が形成されていて、その時の堆積が暗灰色粘土層と考える。(港区)
 - こだわっているのは、ここに砂浜が広がっていたことを考えると、一方で漁師町として栄えていたということに対してどう推定すべきか、という点である。あまりこの辺りに砂浜が広がるイメージを持っていない。(小野田委員)
 - ← 雑魚場は砂浜だったことを文献で確認している。薩摩台場の位置は薩摩藩邸が海にせり出す形なので、砂浜ではなく海中に当たる場所だったと考える。(港区)
 - この部分の海の状況も、今後整理してもらいたい。(小野田委員)
 - ← ここに関しては薩摩藩邸の絵図が残っている。参考にしてもらいたい。(委員長)
- T.P.-1.0m の層に木片が混在とあるが、木は普通は水に浮くと思うがよくある状態か。(JRC)
 - ← バラバラの破片が海砂層内に含有されている状態である。貝や礫も大量に含まれる。コアのみで判断すると、海の床に溜まっていたものを浚って盛り上げたような人為的に集められた印象を受けている。(港区)
- 今回の箇所の土層の堆積状況は、これまで確認されている薩摩台場の層序と共通するものと理解する。海砂は検出されたコアと検出されていないコアがあり、必ずしも面的には一律ではないように思えるため、薩摩台場埋立の際に手が加えられた状況は十分考えられる。遺物は元々堆積したのか、人為的に混入したのか確認する必要がある。(委員長)
- 本日の報告を受け、これまでの判断より、今回の3箇所の仮橋脚の基礎、遮水壁の打設は可とする判断としたい。ただし、今回は仮橋脚の位置と遮水壁の位置が近接していることから、遮水壁の位置でのボーリング調査を行わずに判断することになる。これまでの実績から問題ないと考えたが、遮水壁の位置で事前に探針調査を行うことを条件としたい。探針調査の結果、何らかの障害物が検出されればそれを明らかにする必要があると考える。(委員長)
 - ← 意義なし。(委員一同)

→ 今後もこのような判断が必要になる場合は、これに準じて進める。(委員長)

●資料 1-4 について説明する。(港区)

＜説明概要＞

- ・前回委員会で報告した KP27-2 で検出した甕について、鹿児島県立埋蔵文化財センターに確認した結果、肩部に二重圈線が入る形状等の特徴から、薩摩焼で間違いのないということであった。
- ・さらに、重ね焼きするときの痕跡となるコマ目の痕が見られることから 19 世紀のものであるということであった。

- 江戸ではあまり薩摩焼の遺物は出土していないので、江戸の遺物としては珍しいものである。(委員長)

(3) 松杭位置について

●資料 2 について説明する。(事務局)

＜説明概要＞

- ・田町駅の旧ホームの杭と想定した松杭について、前回委員会で古関委員から指摘のあった、ホーム位置自体が現在と動いていないかどうかの確認を行った。
- ・現在の航空写真画像と大正 7 年の構内図を重ねたところ、ホーム断面方向の位置は概ね合致することが確認された。
- ・確認できる最古の航空写真となる 1936 年の画像と大正 7 年の構内図を重ねたところ、解像度が粗いという問題はあるが、概ね位置が変わっていないことが確認された。
- この結果により、検出された松杭がホームの基礎杭であるとの判断に矛盾がないことが明確となった。本件はこの結果をもって終了で良い。(古関委員)
- 大正 7 年の線路平面図でホームの上屋とホームの外形線が描かれているとすると、KP27-4 がホーム端部のきわどい位置に当たり、少し旧ホームと重なっていない気もする。(小野田委員)
 - ← CAD で重ねており現情報では正確と考えるが、その判断は難しい。(事務局)
 - 了解した。かなり貴重な成果であることに変わりはない。(小野田委員)

(4) その他

- 最後に文化財行政からコメントをもらう。
 - ← 現地見学会について、港区ほか関係する皆様よろしくお願いします。(文化庁)
 - ← 現地見学会についてよろしくお願いします。調査成果が蓄積されてきたので、埋蔵文化財包蔵地の周知化について、引き続き港区と協議を進めていきたい。(東京都)
 - ← 前回委員会で、11 月 8 日(金)に確認調査速報を HP にて公開すると発言したが、関係各所との情報共有に時間を要し、結果として 5 日後の 11 月 13 日(水)となった

ことをお詫びする。現地見学会は 12 月 8 日(日)、9 日(月)の 9 時から 15 時で開催する。12 月 3 日(火)には先行して報道機関向けに事前公開を実施し、既に NHK で報道もしていただき、昨日の時点で数件の問い合わせがあった。調査主体として港区が主催しているが、所有者である JR のご協力があるからこそ、限りなく共催に近い見学会であると認識している。改めて感謝申し上げます。また、見学者の待機場所等を提供いただいた京急、UR にも感謝申し上げます。当日お越しいただく方や従事される方は寒さ対策をお願いします。(港区)

(5) 閉会

3 議事録

3.1 議事録確認

(1) 開会

- (事務局) 第 50 回 高輪築堤調査・保存等検討委員会を開会する。
- ・ 挨拶
 - ・ 資料確認
 - ・ オンラインの案内
 - ・ 次第説明

(2) 議事録確認

- (事務局) 4つの議事録について修正等の指摘はあるか。修正等があれば委員会終了までに連絡をいただきたい。
- (事務局) 意見がなければ、議事録確認を終了する。

3.2 部会③

(1) 開会

- (委員長) 次第に沿って進める。

(2) 調査結果について

- (港区) 資料 1 について説明する。資料 1-1 に緑色で示す、KP19・20 の 3 箇所、仮橋脚部口元管の試掘、ボーリング No.94・96・101・103・108・110 の報告であり、仮橋脚と遮水壁の施工の可否を判断してもらいたい。資料 1-2 に、仮橋脚部口元管ライナー試掘成果を示す。3 箇所いずれも口元管 4 段目まで構造物は確認されず、遺物も確認されなかった。土層の状況は、周囲の薩摩台場の盛土と推定する土層と類似しており、ボーリング結果とも概ね一致している。資料 1-3 にボーリング調査結果を示す。これまでの結果と同様に、薩摩台場と思われる層が検出された。T.P.-1.0m より下層付近で、ほぼ全てのコアから海砂が確認され、No.110 ではこの層から江戸期の遺物が検出された。今回は遮水壁の同一位置でのボーリングではなく、その周囲で行っている。JR の方で今後遮水壁の施工前には同一位置で探針調査を行って、支障の有無を確認したのちに施工するとのことである。
- (事務局) 遮水壁の施工については、同一位置において事前に探針調査を行い、

- 何かに抵触したら港区に報告する形で進める。
- (委員長) 質問、意見はあるか。
- (小野田委員) 海砂の由来は確認しているか。ここで堆積していたものか。
- (港区) コアを確認する限り、この場所で堆積したものと思われる。多くの木片や貝片の混在が確認されている。海岸に見られる砂の形状なので、もしかしたらもう少し上部にあったのかもしれない。砂のなかに非常に木片が多いのがこの特徴になる。
- (小野田委員) 自然堆積層と考えるのか。
- (港区) 自然堆積層と考えるが、何らか人為的に集められた可能性もあるため、現時点では自然堆積層は黒色粘土層のみとしている。海砂と黒色粘土層の間の暗灰色粘土層についても、木片などが混じる状況が確認されている。
- (小野田委員) 江戸時代はここは砂浜だったと考えるか。
- (港区) 古くは深い谷が形成されていて、その時の堆積が暗灰色粘土層と考える。
- (小野田委員) こだわっているのは、ここに砂浜が広がっていたことを考えると、一方で漁師町として栄えていたということに対してどう推定すべきか、という点である。あまりこの辺りに砂浜が広がるイメージを持っていない。
- (港区) 雑魚場は砂浜だったことを文献で確認している。薩摩台場の位置は薩摩藩邸が海にせり出す形なので、砂浜ではなく海中に当たる場所だったと考える。
- (小野田委員) この部分の海の状況も、今後整理してもらいたい。
- (委員長) ここに関しては薩摩藩邸の絵図が残っている。参考にしてもらいたい。
- (JRC) T.P.-1.0m の層に木片が混在とあるが、木は普通は水に浮くと思うがよくある状態か。
- (港区) バラバラの破片が海砂層内に含有されている状態である。貝や礫も大量に含まれる。コアのみで判断すると、海の床に溜まっていたものを浚って盛り上げたような人為的に集められた印象を受けている。
- (JRC) 今日の所はそれで了解した。
- (委員長) 今回の箇所の土層の堆積状況は、これまで確認されている薩摩台場の層序と共通するものと理解する。海砂は検出されたコアと検出されていないコアがあり、必ずしも面的には一律ではないように思えるため、薩摩台場埋立の際に手が加えられた状況は十分考えられる。遺物は元々堆積したのか、人為的に混入したのか確認する必要がある。
- (委員長) 本日の報告を受け、これまでの判断より、今回の3箇所の仮橋脚の基礎、遮水壁の打設は可とする判断としたい。ただし、今回は仮橋脚の位置と遮水壁の位置が近接していることから、遮水壁の位置でのボーリング調査を行わずに判断することになる。これまでの実績から問題ないと考えたが、遮水壁の位置で事前に探針調査を行うことを条件と

したい。探針調査の結果、何らかの障害物が検出されればそれを明らかにする必要がある。

(委員一同)

意義なし。

(委員長)

今後もこのような判断が必要になる場合は、これに準じて進める。

(港区)

資料 1-4 について説明する。前回委員会で報告した KP27-2 で検出した甕について、鹿児島県立埋蔵文化財センターに確認した結果を報告する。肩部に二重圈線が入る形状等の特徴から、薩摩焼で間違いのないということであった。さらに、重ね焼きするときの痕跡となるコマ目の痕が見られることから 19 世紀のものであるということであった。

(委員長)

江戸ではあまり薩摩焼の遺物は出土していないので、薩摩台場だから薩摩焼が出てきたことは当然なのかもしれないが、江戸の遺物としては珍しいものである。

(委員長)

他に何かなければ、次に進める。

(3) 松杭位置について

(事務局)

資料 2 について説明する。田町駅の旧ホームの杭と想定した松杭について、前回委員会で古関委員から指摘のあった、ホーム位置自体が現在と動いていないかどうかの確認を行った。現在の航空写真画像と大正 7 年の線路平面図を重ねたところ、ホーム断面方向の位置は概ね合致することが確認された。さらに、確認できる最古の航空写真となる 1936 年の画像と大正 7 年の線路平面図を重ねたところ、解像度が粗いという問題はあるが、概ね位置が変わっていないことが確認された。

(委員長)

質問、意見はあるか。

(古関委員)

詳細な調査に感謝する。この結果により、検出された松杭がホームの基礎杭であるとの判断に矛盾がないことが明確となった。本件はこの結果をもって終了で良い。

(小野田委員)

大正 7 年の線路平面図でホームの上屋とホームの外形線が描かれているとすると、KP27-4 がホーム端部のきわどい位置に当たり、少し旧ホームと重なっていない気もする。

(事務局)

CAD で重ねており現情報では正確と考えるが、その判断は難しい。

(小野田委員)

了解した。かなり貴重な成果であることに変わりはない。

(委員長)

他に何かなければ、次に進める。

(4) その他

(委員長)

その他は何かあるか。

(5) 閉会

(委員長)

特になければ部会③を閉会する。

- (委員長) 最後に文化財行政からコメントをもらう。
- (文化庁) 現地見学会について、港区ほか関係する皆様よろしくお願いします。
- (東京都) 現地見学会についてよろしくお願いします。調査成果が蓄積されてきたので、埋蔵文化財包蔵地の周知化について、引き続き港区と協議を進めていきたい。
- (港区) 前回委員会で、11月8日(金)に確認調査速報をHPにて公開すると発言したが、関係各所との情報共有に時間を要し、結果として5日後の11月13日(水)となったことをお詫びする。現地見学会は12月8日(日)、9日(月)の9時から15時で開催する。12月3日(火)には先行して報道機関向けに事前公開を実施し、既にNHKで報道もしていただき、昨日の時点で数件の問い合わせがあった。調査主体として港区が主催しているが、所有者であるJRのご協力があってこそ、限りなく共催に近い見学会であると認識している。改めて感謝申し上げます。また、見学者の待機場所等を提供いただいた京急、URにも感謝申し上げます。当日お越しいただく方や従事される方は寒さ対策をお願いします。
- (事務局) 次回の定例委員会は、1月8日(水)10時00分から、会場はJR東日本現地会議室を予定する。お忙しい中貴重なご意見をありがとうございました。閉会とする。

以 上